

令和7年度 第2回 市川市博物館協議会

日 時 令和 8年 3月 25日(水)
午後2時 ～ 午後4時
会 場 市立市川歴史博物館1階会議室

会 議 次 第

議 題

- (1) 報告事項
 - ・令和8年度館別事業計画について
 - ・令和8年度企画展「よみがえる曾谷貝塚～国内最大級の馬蹄形貝塚～（仮称）」
 - ・市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画について
- (2) その他
 - ・令和7年度下半期に行った事業の報告について
 - ・次回協議会（開催日程等）について
- (3) 現場視察
 - ・博物館友の会50周年企画展（市川歴史博物館展示室）

令和8年度 考古博物館 事業計画(案) 251224

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び調査研究	1. 収蔵資料の調査・整理及びデータベース化	1,000点/年	
	2. 市内出土資料調査	年間を通して実施	
	3. 博物館資料のパソコン管理(収蔵品・図書・住所ほか)	1,000件/年	
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	5. 文化財担当関係調査(曾谷貝塚史跡整備活用、調査)	年間を通して実施	
	6. 市史編纂関係調査	〃	
	7. 赤米調査(簡易な古代米栽培、不耕起・長稈品種)	4～11月	
	8. 若手学芸員による博物館将来像研究(歴・自)	随時	
展示	1. 常設展及び北国分駅構内展示	年間を通して実施	
	2. 企画展「よみがえる曾谷貝塚(仮)」	1/16(土)～3/28(日)	
	3. 小企画展「堀之内・曾谷・姥山」(令和7年度館務実習展示)	～7/26(日)	
	4. 小企画展「史跡、貝塚関係」(令和8年度館務実習展示)	8/8土～1年間	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 市川歴史セミナー 400円(資料200円+公開講演会200円)	6月～2月 第2土曜(全8回)
		2. 市川歴史セミナー公開講演会 貝輪・忍澤成視先生(考古)	2/13(土)
		3. 考古博物館講座『続日本紀』を読む	4/22(水)～数回
		4. 火おこし・縄文学習・組紐指導員の養成講座・活動支援	土曜・日曜ほか
		5. 夏休みスタンプラリー	7/18(土)～8/30(日)?
		6. オータムフェスタ(鯨下コンサート) ※広報の強化	11/23(月祝)?
		7. 土器・土偶づくり(友の会共催)	11/1・8・15・29(日)
		8. 縄文体験フェスティバル(第27回)	3/28(日)
		9. 市川市民まつり、スピアーズ、コルトンプラザ等外部出展	11/3(火祝)?ほか
		10. アイ・リンクタウン年表設置・関連イベント(歴)	年間を通して実施
		11. デジタル地域通貨「ICHICO」関連事業(歴)	4～2月
		12. 国府等VR映像公開	年間を通して実施
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展「曾谷貝塚」	9～12月
		2. 小学生向け縄文体験・出張授業	4～7月
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導(ガイダンス1日、実務10日)	6/26(金),7/28(火)～8/7(金)
		5. 千葉商科大学出張展示	年間を通して実施
		6. 大学コンソーシアム市川	8月?
		◎教員関連	
1. 市立小中学校教員研修	依頼により実施		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポーターする事業	1. 博物館友の会事業協力、12月役員会行事打合せ	依頼等により実施
		2. 公民館講座(社会教育課)	〃
		3. 地域まつり(曾谷縄文まつり、六中ブロックほか)	〃
		4. 市内公共施設出張展示および解説(各所管課)	〃
		5. 外部依頼講座(他自治体及び市民団体)	〃
運営		1. 令和7年度考古博物館館報(第54号)発行	3月、600部
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
		3. 令和8年度考古・歴史博物館行事案内発行	3月、10,000部
		4. 博物館協議会事務局事務	2回/年
		5. 考古・歴史公式Webサイト、SNS運営、DTP機器管理	年間を通して実施
		6. 施設維持管理、エレベーター改修、屋上防水・外壁修繕等	年間を通して実施
		7. 整理・清掃・修繕・防虫等(冬期臨時休館はしない)	2月上旬

	R8館報紀要 井上駅（下）、組紐、直刀X線
	R8年度 企画展：曾谷貝塚（領塚）
	R8年度 主要事業 収蔵庫整理、電子台帳整備
	R9年度 企画展：歴博、クジラワイヤーロープ交換、考・歴 展示図録
	R10年度 企画展：自然博 ※考古55周年
	基本計画評価
	R11年度 企画展：考古博（松本？岡本？）考歴DTP機器更新
	R12年度 企画展：歴博
	R13年度 企画展：自然博
	R14年度 企画展：考古博
	R15年度 企画展：歴博 ※考古60周年
	R16年度 企画展：自然博

令和8年度 歴史博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数			
収集・保管及び調査研究	1. 古文書類の調査・整理	500点/年			
	2. 第一収蔵室民具資料整理	年間を通して実施			
	3. 市内小学校所蔵資料調査	依頼により実施			
	4. 市内民俗行事調査	年間を通して実施			
	5. 博物館資料のパソコン管理（図書管理・住所管理）	500件/年			
	6. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時			
	7. 文化財担当関係調査	年間を通して実施			
	8. 市史編纂関係調査（協力）	〃			
展示	1. 常設展	年間を通して実施			
	2. 学校連携学習資料展「発見・体験昔の暮らし」	9/5(土)～12/13(日)			
	3. 季節の展示等（春・夏）	年間を通して実施			
	4. 館務実習展	9/12(土)～12/27(日)			
	5. 収蔵庫整理事業報告展	①7/4(土)～8/30(日) ②1/16(土)～2/28(日)			
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 市川歴史セミナー	6月～2月 第2土曜日（全8回）		
		2. 夏休み体験講座 ※子供向け （和綴じのメモ帳作り、水鉄砲作り、歴博こども1日学芸員）	和綴じ：7/19(日) 水鉄砲：①7/26(日) ②8/9(日) 学芸員：8/2		
		3. 夏休みスタンプラリー ※子供向け	7/18(土)～8/30(日)		
		4. オータムフェスタ（音楽会含む）	11/23(月祝)		
		5. 正月飾り・クリスマスリース作り ※子供向け	12/13(日) ①10時 ②13時		
		6. 縄文体験フェスティバル	3/21(日)		
		7. 昔の遊び体験 ※子供向け	年間を通して実施		
		8. 体験学習指導員定例研修会	1回/1ヶ月（主に第4土曜日）		
		9. 古文書講座(中近世)	冬全3回		
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連			
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施		
		2. 小学生向け体験学習指導	9/5(土)～12/13(日)		
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施		
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	8/28(金)、9/4(金)～9/11(金)		
		5. 特別実習	6/26(金)～7/3(金)		
		6. 学生調べ学習指導	年間を通して実施		
		◎教員関連			
		1. 市立小中学校教員研修会	依頼により実施		
		地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
				2. 公民館講座（社会教育課）	〃
				3. 地域まつり（行徳まつり、自治会等）	〃
4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	〃				
5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	〃				
6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	〃				
運営		1. 令和7年度歴史博物館館報発行	3月、600部		
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年		
		3. 令和7年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月		
		4. SNS等による情報発信	随時（イベント近日は毎日）		
		5. 博物館協議会事務局事務	2回/年		
		6. 施設の維持管理	年間を通して実施		
		7. 施設整備（休館）	2月上旬		

令和8年度 自然博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・調査・研究及び保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	2. 資料の電子化	年間を通じて実施	
	3. 図書管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	4. 長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	年間を通じて実施	
	5. トビハゼ調査	7月と10月に各1回	
	6. ヒヌマイトトンゴ調査	7月に数回	
	7. 剥製制作委託	2月に1回	
	8. 各種研究会への参加、関連施設の視察	可能な範囲で実施	
展示	1. 常設展（市川の自然）	年間を通じて実施	
	2. 特別展示室の常時活用（飼育展示など）	年間を通じて実施	
	3. ホール小展示（飼育展示など）	年間を通じて実施	
	4. 展示解説	適宜	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 長田谷津散策会	毎月1回で12回
		2. 大町自然観察園環境整備	7月、8月を除く月1回、10回
		3. スナヤツメ・レスキュー	7月、8月を除く月1回、10回
		4. ホトケドジョウ・レスキュー	7月、8月を除く月1回、10回
		5. 15分ミニ解説	長田谷津散策会終了後
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連	
		1. 出張授業	依頼により実施
		2. グリーンスクール	依頼により実施
		3. その他（部活支援、職場体験・職業講和、教員研修など）	依頼により実施
		4. 大学生学芸員課程館務実習指導	7/31(金)～8/12(水)
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 一般講師派遣（関係課、公民館、市民団体等）	依頼により実施
運営		1. 自然博物館だよりの制作及び発行	1,250部/6回（隔月）
		2. 令和7年度自然博物館年報（No.36）発行	150部 8月
		3. 施設の維持管理及び庶務事務	毎日

市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画（案）



いつも新しい流れがある 市川

市川市教育委員会 教育振興部 文化財課

（考古博物館・歴史博物館・自然博物館）

平成28年6月策定

令和8年5月改訂

目 次

第1章 方針の策定にあたって	1
第2章 市川市立博物館基本的運営方針	4
第3章 市川市立博物館基本的運営方針の体系	8
第4章 実施計画	10

付

市川市立博物館の設置及び管理に関する条例

市川市立博物館の設置及び管理に関する条例施行規則

博物館法

博物館法施行規則

博物館の設置及び運営上の望ましい基準

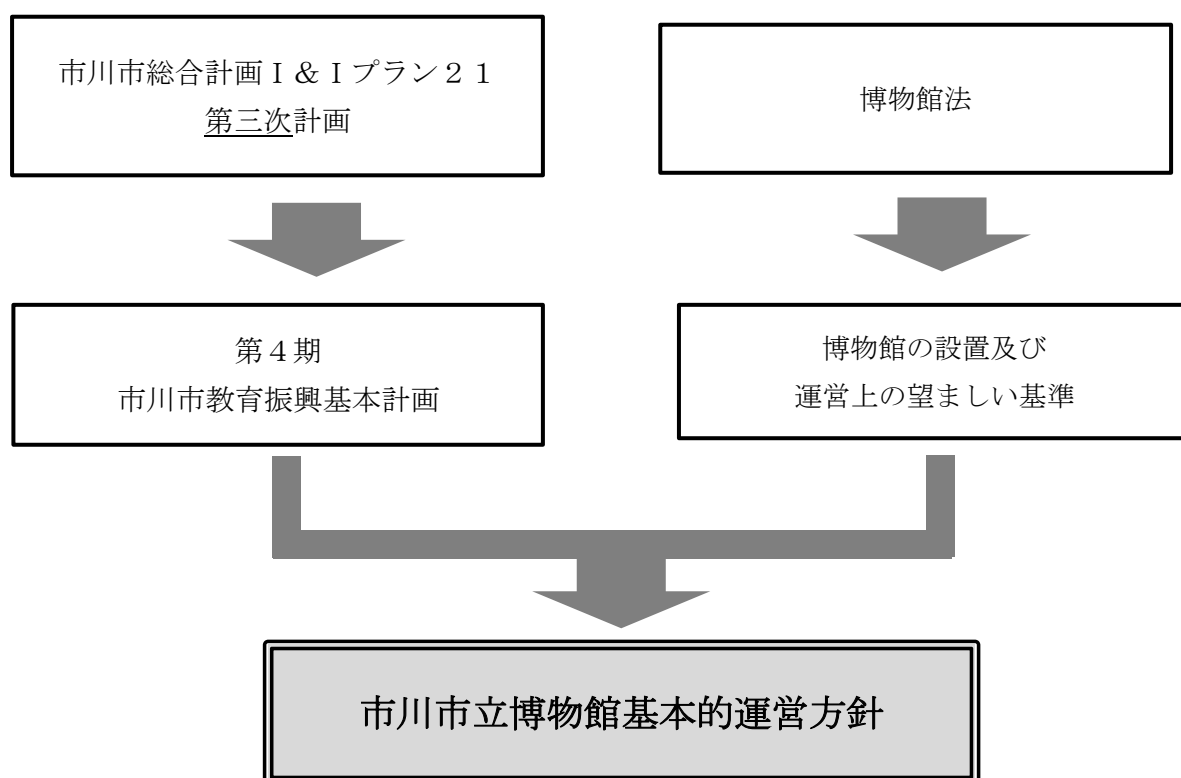
第1章 方針の策定にあたって

1. 方針の位置づけ

市川市教育振興基本計画（令和6年度から第4期）は、市政運営の根幹である「市川市総合計画 I & I プラン」における第三次基本計画（令和5年4月）の教育分野に関する基本計画として、国の第3期教育振興基本計画（平成30年度）に照らし合わせて策定されました。

また、文部科学省から示されている「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の第三条では、設置の目的を踏まえ、資料の収集・保管展示、調査研究、教育普及活動等の実施に関する基本的な運営方針を策定し、公表するよう努めることされています。

本方針は、この規定に基づき、市川市教育振興基本計画を受けて策定するものです。



2. 方針策定の経緯

本市では、市立博物館の運営について「市立博物館中期計画」（平成23年度～平成25年度。以下「中期計画」という。）に基づいて事業を実施してきました。その成果について、平成26年7月30日に開催した平成26年度第1回市川市博物館協議会（以下「協議会」という。）において評価を行い、引き続き新たな期間の計画を策定することとされていました。

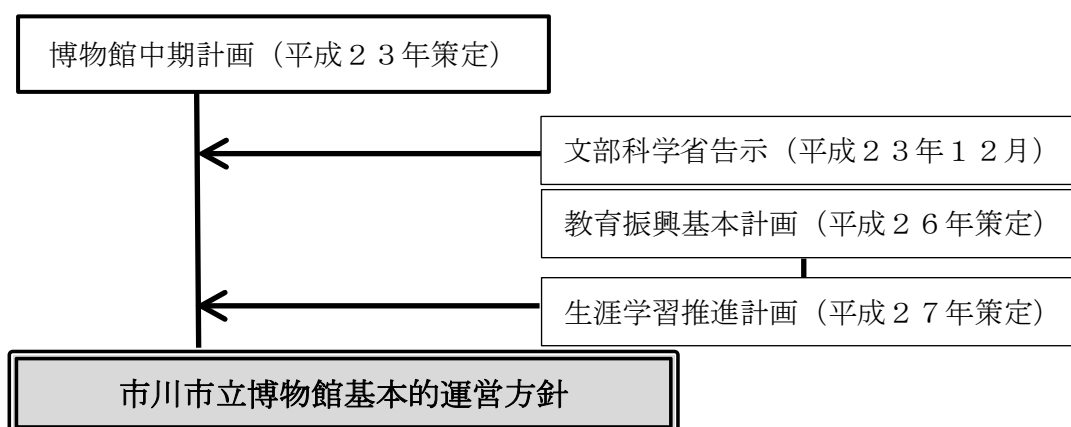
中期計画の策定後、平成23年12月に博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第8条の規定に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成23年12月20日文科科学省告示第165号。以下「望ましい基準」という。）が告示され、第3条において基本的運営方針を策定し、公表するよう努めるものとされました。また同条第2項においては、この基本的運営方針を踏まえ、事業年度ごとに事業計画を策定し公表するよう努めるものとされています。

さらに本市では平成26（2014）年から第2期市川市教育振興基本計画が実施され、これを受けて平成27（2015）年に生涯学習部門の個別計画である第四次市川市生涯学習推進計画（平成31年度まで）が策定されました。

こうした経緯から、本市では従来の中期計画を発展的に見直し、社会状況の変化や各種基本計画の内容を反映して、新たに博物館の基本的運営方針として「市川市立博物館運営基本方針」及び「事業計画の基本方針」を策定することとしました。

策定から8年が経過し、博物館法改正など、博物館を取り巻く環境は変化しており、これらの時代の変化に対応するため、この度、必要な改訂を行うものです。

なお、事業年度ごとの事業計画（単年度事業計画）については、従来どおり協議会による審議を経て策定し公表するとともに、事業実施後には成果についても協議会による評価を受けて、次年度の事業計画に反映してまいります。



3. 計画期間

「第4期市川市教育振興基本計画」の計画期間が令和6年度から5年間とされていることから、「博物館基本的運営方針」もこれに準じて令和10年度末までを適用期間とし、期間末に見直しを含めた検討をするものとします。

なお、単年度の事業計画については、従来どおり協議会による審議を経て策定し、実施していきます。

令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
第4期 教育振興基本計画			第5期 教育振興基本計画
市立博物館基本的運営方針			基本的運営方針 改訂
単年度 事業計画	単年度 事業計画	単年度 事業計画	

4. 博物館活動の現状

文言の修正を行いました。

考古博物館及び歴史博物館は、市の北西部、北国分・堀之内地区の国指定史跡堀之内貝塚公園に隣接する、歴史と文化と緑が織りなす、魅力にあふれた立地条件の下にあります。

考古博物館は、原始から平安時代までの「考古資料」を、歴史博物館は、鎌倉時代以降近・現代までの「歴史・民俗資料」を基に、両館により市川の歴史的、地域的特色を通史的に明らかにし、歴史・民俗等の文化情報の集積・発信基地として地域に根ざした歴史系博物館としての役割を担っています。

自然博物館は、近年各地で起こっている谷津・里山の保全の見本とされる市北東部の大町・大野町地区の長田谷津と隣接して立地しており、「身近な自然の再発見」をテーマに、自然観察・自然体験のためのフィールドを持った博物館として、市の自然環境や動植物の情報を集積し発信する自然科学系博物館としての役割を担っているものです。

3館ともに、担当する各分野の資料を博物館資料として収集し、整理保管・調査研究を通じその成果を活用しています。展示では、常設展示とともに企画展示を開催し、その展示解説を行っています。教育普及では、学芸員による講演会や公民館における講座、ボランティアを交えた学校への出張授業及び各種行事での体験指導などを実施しており、特に学校の教育課程と連携し、体験学習プログラムの充実に努めています。各館それぞれに取り扱う分野に応じて工夫を加え、利用者のニーズや社会の要請に応える博物館活動を行っているところです。

第2章 市川市立博物館基本的運営方針

博物館の登録申請に伴う県のヒアリングで求められた文言等の修正を行いました。

1. 目的

本方針は、博物館法に基づいて博物館が行うこととされている、資料の収集、保管、展示、調査研究、教育普及活動等を実施するにあたり、望ましい基準の規定に基づいて定める博物館の基本的な運営の方針であり、博物館の水準の維持及び向上を図ることにより、市民の学習、学術及び文化の発展並びに地域の活性化に貢献することを目的とします。

2. 博物館に求められる使命

博物館の基本的機能は、博物館法第3条において、資料の収集、保管、調査研究、展示、及び教育普及活動等と規定されています。

このことから、考古博物館においては、市内に残された先土器(旧石器)時代から平安時代までの考古資料について、歴史博物館においては、平安時代から現代までの歴史・民俗資料について、収集、保管、調査研究を進め、展示や普及事業を行い、これら事業を後世に引き継ぐこと、また、自然博物館においては、市川の自然をテーマとして、市内の自然のありさまを記録・収集・保管・展示するとともに調査研究して後世に伝えることが個々の博物館の基本的な機能として求められています。

市川市は、この基本的な機能から生じた成果を文化資源と捉え、3つの市立博物館がこの資源を活用して、市民とともに市川市の文化に関する学びの場を作り上げ、発展させることを使命と考えています。

その使命のうち、学びの場としての博物館は、社会の変化にともなう利用者ニーズの多様化・高度化に応えつつ、教育基本法第3条に示された生涯学習の基本理念をもとに、老・壮・青・少・幼の各年代が学びをとおして豊かな生活を送り、その成果を生かすことができる場でなければなりません。

また、市民とともに作り上げる博物館は、博物館で学んだ市民がその成果を生かす場であるとともに、博物館に関わる市民が市川市の文化を協働で創造する場でなければなりません。その効果は、文化の創造に止まるだけでなく、市民の新たな出会いや連携により、博物館を核とした新たなコミュニティが生まれることにつながります。これは博物館が人と資料が出会う場でだけでなく、資料を介して人と人が出会う場となることを意味します。

さらに、博物館の文化資源は市内各地域の特色を生かした地域振興や観光振興の活性

化にも活用でき、これらの活動を通して、博物館の文化資源は市川市のかげがえのない文化資産として、文化の力による市川市の発展に寄与することができます。

このような社会的使命に応えるため、本方針では、博物館の活動に、大きく「3つの使命」を定め、その下に7つの「施策の方向」を置くこととしました。

前回の会議で頂いたご意見を踏まえ、(1)①に「調査研究の充実及び」を加えました。

3. 「3つの使命」及び7つの「施策の方向」

(1) 生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える博物館

- ① 地域の自然・考古・歴史・民俗・文化的資産の保護と調査研究の充実及び活用
- ② 博物館資料と博物館機能を活用した生涯学習機会の提供
- ③ 関連機関とのネットワークの充実と強化

(2) 子どもの成長や学びを支援する博物館

- ④ 学校等の支援と連携の強化
- ⑤ 家族で学び、体験する場の提供

(3) 地域振興や観光資源等としての博物館

- ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化等
- ⑦ 文化・芸術活動に対する情報提供

4. 「3つの使命」及び7つの「施策の方向」により目指すもの

これらの「3つの使命」及びその下の7つの「施策の方向」を定め、今後の博物館活動を展開する上での指針とし、市民の期待に応えられるよう運営していきます。

(1) 生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える博物館

- ① 地域の自然・考古・歴史・民俗・文化的資産の保護と調査研究の充実及び活用

博物館が収集し、整理保管している様々な博物館資料は、市川の自然環境、考古、歴史、民俗及び文化についての貴重な資産であり、地域への愛着を深めるとともに、地域の魅力を高めるための資源でもあります。このことを踏まえ、博物館の基本的機能である資料の収集及び調査研究活動を充実させ、成果を上げることにより、それらの資産をより豊かなものとすることに努めます。

また、その他の活動もより一層向上させ、魅力ある博物館であり続けるよう進めます。さらに、体験の機会を提供する場として、実物を見て、触れて、体験する機会を提供

することのできる博物館としての要求に積極的に応えていくと共に、博物館資料等のデジタル・アーカイブ化を進めることで、資料の情報の保存と体系化、調査研究成果を含めた資料の公共化及び多様な創造的活動への資料の活用に寄与していきます。

② 博物館資料と博物館機能を活用した生涯学習機会の提供

生涯学習社会とは、「いつでもどこでも誰でもが自らの自由意志で学ぶことができ、その成果が正しく評価される社会」（平成22年度文部科学省生涯学習政策局「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」報告書）とされている。

博物館については、市民に学習や体験の場を提供するにとどまらず、博物館において獲得した成果を活用し、博物館活動の支援や、地域又は団体活動の支援へと繋げていくことができる人材を育成すること、またそうした人材が活躍できる場を提供することも求められています。

価値観の多様化する現代社会において、広い意味での生涯学習のニーズに応えるとともに、そこで得られた知識や成果をさらに活用していくことについても、広く門戸を開いた博物館活動を展開します。

③ 関連機関とのネットワークの充実と強化

博物館が、学ぶことの喜びを共有する場となるよう、市民や関連機関とともに博物館活動を目指します。

そのためには、地域の教育機関やNPO、ボランティア団体、民間企業、近隣の博物館などとの連携や情報発信、情報共有がさらに重要です。

関連機関との連携をより密にし、博物館の魅力をさらに高めます。

(2) 子どもの成長や学びを支援する博物館

④ 学校等の支援と連携の強化

地域の自然、考古、歴史、民俗及び文化を知ることが、子どもの感性や想像力、人間性を豊かにする上でたいへん重要です。

博物館は、学校の学習活動に関連する資料を豊富に保有しています。また、実物資料を実際に見たり触れたり体験することができ、子どもたち一人一人の興味や関心に対して、学芸員や職員が直接対面して対応することもできます。こうした博物館の特性を活用することにより、学校での学習の効果をさらに高めることが可能です。

こうしたことから、博物館は子どもの学習活動の支援に積極的に取り組んでいます。

子どもの地域についての学びや体験を支える方策として、学校における学習や体験活動を博物館の内外で支援します。これらの施策の円滑化を図るため、学校及び教員との連携を一層強化します。

また、学校教員への支援活動や情報提供にも、より積極的に努めます。

⑤ 家族で学び、体験する場の提供

子どもの教育については、家族の存在や役割は、時代を問わず非常に重要です。子どもから高齢者まで家族で学び、体験し、共に語り合うことができる場や話題があることは、今後ますます望まれます。

家族や家庭において、または日常生活の中で、博物館が身近な存在となるような活動を展開します。世代を超えた学習と対話の機会や場所を提供し、地域において誰にとっても魅力的な博物館となるよう努めます。

(3) 地域振興や観光資源等としての博物館

⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化等

価値観の多様化する現代社会においては、博物館は、市民や地域の資産であるばかりでなく、様々な市民活動や地域活動を活性化させるための資源であり、この資源がより有効に活用されるよう、環境を整えます。

また、地域から愛され、支持される博物館となるために、博物館を市民や地域コミュニティによる活動の場や成果の発表に利用できるよう目指します。

また、これからの博物館は、観光資源としての役割も求められていることから、アイ・リンクタウン展望施設に設置した歴史年表等の観光資源を活用し、市の観光部署等との連携を図りながら、事業を進めるよう努めます。

⑦ 文化・芸術活動に対する情報提供

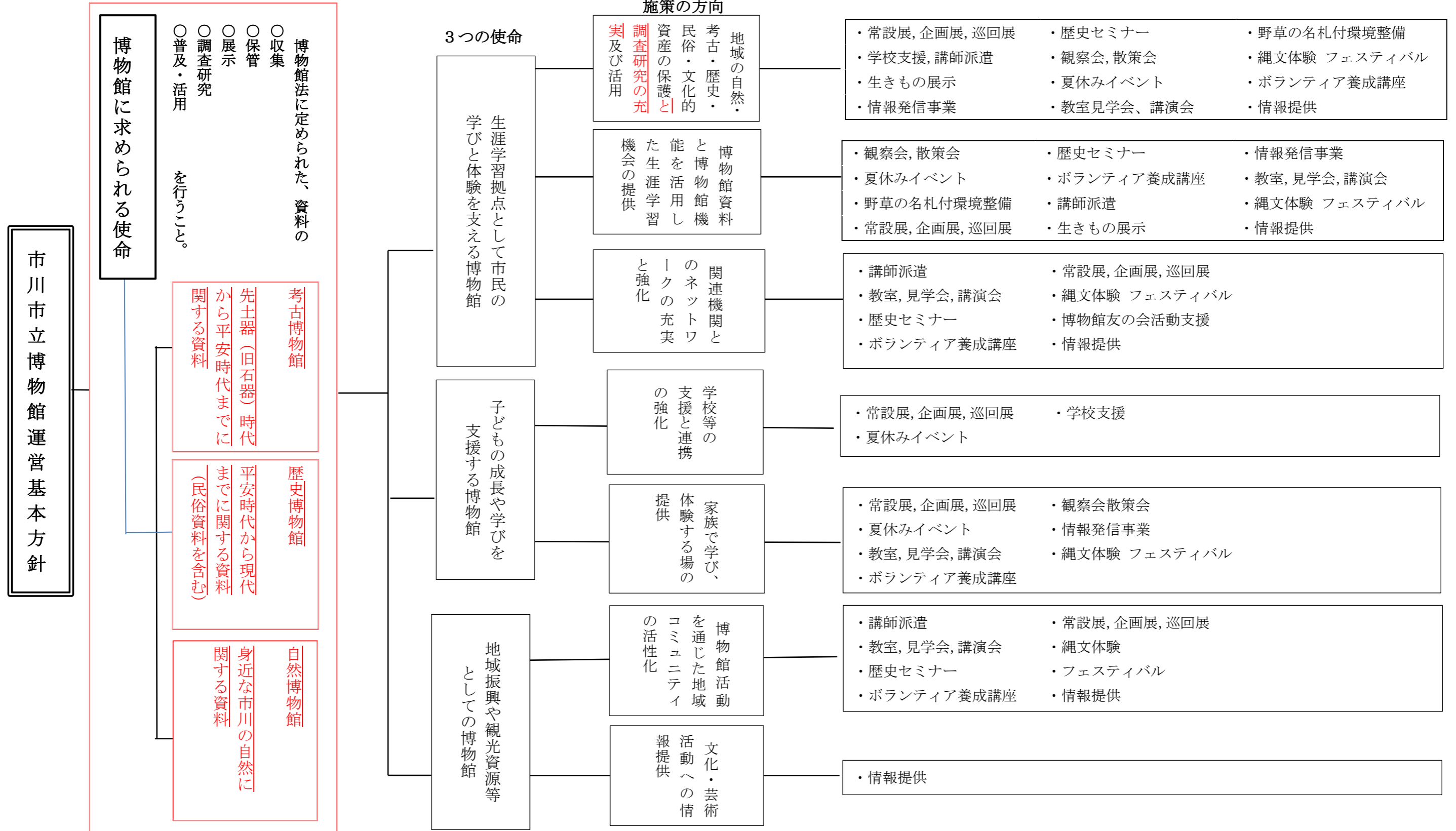
芸術家等が博物館の展示や体験活動等を通じて、歴史や自然に触れることで、イメージネーションを想起し、新たな芸術の形として創作されることも考えられます。

また、市史編纂といった文化的活動においても、博物館の果たす役割は、大変重要です。このことから、文化・芸術活動に関する取り組みに対し、その求めに応じて、正確な情報提供を行うよう努めます。

第3章 市川市立博物館基本的運営方針の体系

博物館再登録のヒアリングを踏まえて
使命に3館の役割の違いを追記しました

具体的な事業内容は、単年度の事業計画で、適切な事業展開を図ります。
また事業の基礎となる資料の収集、保管、展示、調査研究、普及・活用を行います。
以下は関連する事業の具体例



第4章 事業計画

1. 事業計画

基本的運営方針に基づいて博物館活動を行うにあたっては、引き続きP D C Aサイクルの手法を用いて、効果的な運用に努めます。

事業計画については、年度毎に作成し、また、その作成に当たっては、状況に応じた施策の選択と集中を行うことで、適切な事業展開を図っていきます。

また、計画に基づき実施した事業については、従来どおり年度毎に実施状況報告を作成します。

これらのことにより、事業の実施によって得られた利用者のニーズや動向を次年度の事業計画に反映させていくとともに、事業の円滑で効果的な実施を図ります。

2. 評価活動

博物館活動に対する評価についても、前述のP D C Aサイクル手法の強化として、入館者アンケート及び参加者アンケート等による「利用者評価」並びに博物館職員による「自己点検評価」に加え、外部組織である協議会による評価を「外部評価」として取り入れます。

単年度及び個々の事業に関する評価については、毎年度、協議会で評価を行い、そこで得られた知見を参考にしながら、次年度以降の事業を実施する際に反映します。

また、計画期間全体における評価を令和10年度に行い、その際に出された意見を次期計画に反映します。

企画展『よみがえる曾谷貝塚～国内最大級の馬蹄形貝塚～（仮称）』

事業概要（考古博物館）

趣 旨； 市川市には、国史跡である堀之内・曾谷・姥山の三大貝塚をはじめ、50ヶ所以上の縄文時代の貝塚があり、全国でも有数の密集地帯となっている。今回の展示では、最近刊行された『曾谷貝塚総括報告書』の内容に基づいて、これまでの発掘成果を市民の皆様にはわかりやすく紹介する。

開催期間； 令和9年1月16日（土）～3月28日（日） 開催日数 58日
（奈良文化財研究所の曾谷式土器の展示は3月10日まで）

会 場； 市川歴史博物館 2階・特別展示室（展示面積 160㎡）

入 場 料； 無 料

関連行事； ①ガイドツアー 1月17日、2月7・28日、3月21日の各日曜日
②講演会 3月7日（日）

展示資料； 市川市教育委員会（考古博物館・文化財グループ）をはじめ、大学博物館等の研究機関が保管している縄文土器・石器・骨角歯牙製品・貝製品・土偶・人骨・動物遺体など展示する。特に、曾谷式土器の標式資料は、今回初めて市川で公開される。

印刷物； ①ポスター B2判 500枚（外注）
②チラシ A4判 3,000枚（外注）
③図録『よみがえる曾谷貝塚（展示図録）』 A4判 1,000部（外注・有償頒布）

市川博物館友の会 50周年記念展

歴史
部会

地域文化を学ぶ

令和8年

開催
期間

3.7(土) - 3.28(土)

◆ 時間 9:00~16:00 (最終入館15:30)

◆ 開催場所 市立市川歴史博物館 (2階)
〒272-0837 市川市堀之内2丁目27番1号

入場無料

拓
本
部会

考
古
部会

民
俗
部会

市川博物館友の会

50th
Anniversary

市川博物館友の会

ホームページ <https://www.ichikawa-museum.org/index.html>



創立50周年記念展「地域文化を学ぶ」開催にあたって 市川の歴史を掘り起こし、未来へつなぐ。

市川博物館友の会は、この度おかげさまで創立50周年を迎えました。これを記念し、「地域文化を学ぶ」というテーマのもと、1か月間にわたる記念展示を開催いたします。

■ 展示の見どころ

市川の縄文時代から古代及び近世にいたる歴史の中から、各部会が独自の視点で厳選した内容を展示しております。これらは、当会の会員が長年にわたり総力を挙げて調査・研究を重ねてきた成果であり、まさに「努力の結晶」ともいえる作品群です。スペースの都合上、そのすべてをお見せすることは叶いませんが、会員たちが日々積んできた研鑽の一端をぜひご覧ください。

■ 感謝を込めて

当会が50年という節目を無事迎えることができましたのは、市川歴史博物館の館長をはじめ、学芸員・職員の皆様による温かいご指導、そして会員一人ひとりの尽力があったからこそと、深く感謝しております。

■ ご来場の皆様へ

この展示を通して、私たちの活動をより身近に感じていただければ幸いです。アンケートの声に答えて、これからも地域文化の継承に努めてまいります。スタンプラリーに参加された方には、縄文土器片の拓本色紙プレゼントがあります。

考

『市川の縄文時代』

古
部
会

市川の貝塚群の説明、会員による土器等の展示、土日限定スタンプラリー：縄文土器片の拓本色紙プレゼント、遮光器土偶の顔はめパネル撮影



『市川の神輿』

民
俗
部
会

神輿の起源・行徳の神輿展示、中台製作所 代表取締役 中台洋氏による講演会



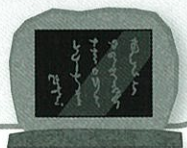
地域文化を学ぶ

拓

『拓本への いざない』

本
部
会

碑文の解説、採拓から表装までの実技披露、日本・中国の作品展示



『下総国府』

歴
史
部
会

下総国府とは「国府・国衙・国庁とは」下総国分僧寺と伽藍ジオラマの展示と解説



市川博物館友の会 TEL.090-9231-4383

議事録 令和7年度第1回市川市博物館協議会

日時： 令和7年8月21日（木） 14:00～16:00
 場所： 市立市川歴史博物館2階講堂
 出席者： 博物館協議会委員 13名
 <文化財課>小笠原課長、高橋主幹、荒井自然博物館長、松本副主幹、小野副主幹、久保主査、金子主任、山岸主任、岡本主事、福島主事

提出書類
 受領書類

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
松田委員長	お手元資料の会議次第に従って、本日の会議を進めます。 初めに会議の成立、会議の公開について事務局より説明をお願いします。
高橋主幹	本日は、14名中13名の委員が出席されておりますので、「市川市立博物館の設置及び管理条例」第12条第2項の会議開催の規定「委員定数の過半数以上の出席」という条件をみたしておりますことから、この協議会は成立しておりますことをご報告いたします。 次に、会議の公開についてですが、市川市では協議会等の会議の「公開」「非公開」の決定について、議事に先立ち決定することとなっております。 事務局では、本日の介護を「公開」とすることを考えております。
松田委員長	それでは、本日の会議については「公開」とすることよろしいでしょうか。 ご異議がございませんので、本日の会議は「公開」といたしました。 傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。
高橋主幹	本日は傍聴者はありません。
松田委員長	それでは、これより「令和7年度第1回市川市博物館協議会」を開会いたします。 本日の会議の内容は、議事次第を確認していただきますと、報告事項2件、協議事項2件、その他が1件、「第6回全国国府サミット in 市川」の開催について、次回開催日程でございます。 早速、括弧1の報告事項、令和6年度事業実施状況に対する自己評価について事務局より説明をお願いします。
松本学芸員	考古博物館の松本と申します。 資料左側の大分類ごとにまとめて説明いたしますが、トピック的な内容を中心に報告いたします。 収集保管・調査研究事業につきまして、そのうち市内出土史料調査は年間を通して実施可能な時期に行っており、令和6年度では縄文担当の学芸員が各地で調査したほか、寄贈された直刀の出土地を求めて、果たしてどこから出土したのかということなどを調査しました。 文化財担当関係調査では、曾谷貝塚或いは下総国分寺跡などの史跡保存活用計画の策定でそれぞれサポートメンバーとして入り、中身を詰めていく手伝いを行っております。 展示事業では、令和6年度は考古博の大規模な企画展の開催年ではなく、通常の常設展、或いは大学生の館務実習を兼ねた小企画展を開催しております。

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
<p>事務局 山岸学芸員</p>	<p>また、県指定になりました釈迦如来立像は、いわゆる花祭りなどにも使われたであろうと推測できるため、欠失している水盆を復元したという様子を館報にお示ししています。</p> <p>教育普及事業のうち全市民対象としたメニューとして講座や講演に相当するもの、ワークショップ、未就学児でも参加可能なスタンプラリー、おまつりなどの行事を幅広く揃えております。そのうち、トピックとしましては歴史セミナーで、大河ドラマで紫式部が取り上げられておりましたので、それに合わせて講演を実施しました。そのほか、アイ・リンクタウンという市の展望施設では、南側に年表を設置し、除幕式と称して、市長、教育長、近隣の小学生らに集まっていただきました。</p> <p>年表に関しましては、展望施設、考古博物館、歴史博物館の3カ所を廻るスタンプラリーを開催しました。更に、市の広報の8回分を使用しまして、広報紙最終面に年表の一部を掲載し、市民の皆さんに注目していただこうと広報広聴課と一緒に取り組んでいます。</p> <p>次に、運営の中のトピックとしましては、考古・歴史博物館の公式ウェブサイト、SNS運営という項目で、資料の貸借、史料調査に来られる方が色々な申し込みをされますが、その手続きを簡略化し、ウェブサイトに掲載している書式の説明を充実させました。以上、考古博物館の松本でした。</p> <p>続きまして、歴史博物館の山岸と申します。</p> <p>私からは歴史博物館について、考古博物館と同様にトピック的な内容を報告いたします。</p> <p>まずは収集保管及び調査研究事業の欄から見ていきます。</p> <p>新着収蔵の古文書90点の整理と館蔵史料の再整理、これが約900点の整理が進みまして、民俗史料としましては館蔵史料100点余りと大型史料の再整理が進みました。このうち古文書に関しましては、1つの家の古文書の数が膨大であるため、全体的に整理は進んでいない状況です。</p> <p>民具資料につきましても、既存の収蔵史料の再整理を優先しているため、新着史料は進んでいませんが、今後進めていく予定です。</p> <p>資料及び古写真のデータベース化も、収蔵資料の調査研究と並行して古文書目録のデジタル化を継続しており、会計年度任用職員の協力を得て、令和6年度は前年度から続いていた5件、800点あまりのデジタル化が進みました。</p> <p>展示事業、発見体験昔の暮らしでは、学校連携学習資料展となっております、従来は11月から1月にかけての展示だったのですが、小学校3年生の校外学習が9月から始まりますので、9月に合わせて開催しました。</p> <p>そのため会期が2ヶ月延びたことで、入館者数も前年度より4000人あまり増えました。</p> <p>小企画展は季節の展示として例年通り行っておりまして、収蔵庫整理展は、國學院大學観光まちづくり学部を中心とした学生ボランティアによる収蔵庫整理を行いました。大型資料と製塩道具を中心に清掃現状調査、デジタル撮影を行っておりまして、その成果報告点を、9月から1月にかけて実施しました。</p> <p>次年度以降も引き続き実施していく予定です。</p> <p>教育普及事業の全市民対象では、季節の行事体験では薫リースづくりを行いました。参加者に薫綯いをしていただいてクリスマスリースまたは正月飾りを作ってもらおう体験となります。また縄綯いは手でやってもらう以外に機械の足踏み式の縄綯い機というものも稼働できるように整備いたしまして、動くようになって</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 金子学芸員	<p>いますのでそれも体験していただきました。次年度以降も縄縷い機を利用する機会をふやしたいと思います。</p> <p>昔の暮らし等の体験講座ですが、洗濯体験と竹の水鉄砲づくり、和綴本作りは7月、8月に実施している子供向けの体験講座になります。</p> <p>近年、猛暑が続いているため、次年度以降は安全面を考えて、洗濯体験を実施せず、代わりに竹の水鉄砲づくりの回数を1回から2回ふやす形に変えていきます。ナイトミュージアムに関しては実施せずに、オータムフェスタに変更しました。オータムフェスタに関しましては、演奏会であるとか、足踏みミシンの体験、紋切り遊び等を実施しました。</p> <p>こちらは、博物館のボランティアの他にも、和洋女子大学の学生ボランティアにも協力していただきました。好評だったため次年度も実施したいと思っています。次に、教育普及事業の学校連携ですが、学校巡回展、教材用資料貸出し、出前授業をそれぞれ行っています。出前授業が2校、資料貸し出しをしたのが1校です。今年度は塩浜学園で行徳の歴史、富貴島小で昔の暮らしの出前授業を実施しまして、実際に使われていた道具などを持って行って生徒に触ってもらう時間を設けました。</p> <p>また昭和学院中学校には戦時期の資料を貸し出し、授業で使っていただきました。こちら申し込みがあれば、翌年度も実施する予定です。</p> <p>地域連携では、博物館友の会事業への協力を行っておりますが、こちらは年間を通じて活動場所の提供の他、講演会講師、会報の原稿執筆などを行っております。同様に公民館講座も実施しており、また外部依頼講座も行っており、こちら要請があれば協力していく予定です。</p> <p>歴史博物館からは以上となります。</p> <p>それでは、自然博物館より令和6年度自然博物館事業実施状況評価についてご報告いたします。</p> <p>資料1枚目、収集保管及び調査研究事業ですけれども、収蔵資料の調査、整備及び専用パソコン管理ということで、目標または予定では収蔵台帳のWEB公開を行う、実施及び達成状況としては、収蔵標本リスト各植物をウェブサイト公開したということで、収蔵している植物標本のデータがエクセル表になっておりまして、そのエクセル表をホームページウェブサイト貼り付けるという形なので。誰でもダウンロードして、当館にある植物標本の情報を得ることができるようになっております。当然、並べ替えをしたり検索をかけたりが、ダウンロードした方が自由に行えるという形で、一応目標の1つを達成したとしています。</p> <p>評価を始めた最初の頃は、博物館として当然、これぐらいのことができてA評価でしょうということで、自己評価をBなりCなり辛口につけていましたが、毎年議論をいただく中で、当方とニュアンスが少し違う先生方もおられまして、別途、評価基準がありますけれども、A・B・C・DのうちのB、ほぼ見込み通りの成果を達成したらBなので、できていなければC、D評価、思った以上にできたらAだという評価だと思いましたが、ただ括弧の中のパーセンテージを見ると、Aが90%以上になっているので、「目標通りのことができたならA」は100%ではないということになってしまい、これがとても揺れてしまう原因ですけれども、とりあえず何年間かのご議論の経緯を踏まえて自己評価をつけました。</p> <p>とりあえず収蔵標本リストをホームページ上にアップできたというのは良かったかなと思います。</p> <p>展示事業ですが、常設展示の目標では予定年間10万人の来館者を目指しまして、</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>実施及び達成状況では10万人以上の来館者があったということで評価をつけています。ただご存じのように当館の場合は、動物園という観光施設の中にある博物館という教育施設なので、そもそも観光施設としての集客がありますので、個数がすごく大きいので、おそらく他館と比較をするべき数ではないと考えておりますけれども、観光施設としての動物園が集客をした中で、来てくださった方をどれだけ展示室、博物館施設の方に引っ張ってくるかというのが私たちの仕事であると思います。</p> <p>動物園が大体年間20万人ぐらいの数字が出ていますので、動物園の半分ぐらいの10万人ぐらいを目標値に設定しまして、目標を達成できたということでA評価になっております。</p> <p>その他、教育普及事業の全市民対象事業では、4つの事業、長田谷津散策会、大町自然観察園環境整備、スナヤツメ・レスキュー、ホトケドジョウ・レスキューとあって、これは参加者数でA・B・C・D評価をつけましたが。スナヤツメ・レスキュー、ホトケドジョウ・レスキューがB評価になっています。スナヤツメは魚です。あとホトケドジョウも魚です。国の絶滅危惧種の魚が博物館に隣接する自然観察園などで生息してしまっていて、どちらも決して安泰な状況ではないので、生息状況調査、それから環境の改善活動等博物館主催でボランティアの方と一緒に、或いは単独で行っている形です。</p> <p>ただ、地味なボランティア作業なので参加者数で評価してしまうと、1回当たり10人の参加者で考えていましたが、スナヤツメ・レスキューだと3.5人、ホトケドジョウ・レスキューは3.6人で、目標値の50%も達していないので、評価基準どおりB評価になっています。ただ、これは参加者数で評価してはいけないだろうと思っていて、スナヤツメが保全できてればいいのではないかとか、ホトケドジョウが保全できてれば、増えたらA評価ではないか、滅びてしまったらD評価ではないか、もしかしたら数値評価であっても、評価基準を変えたほうが良いのかもしれないのでご議論をいただけるとありがたいと思います。</p> <p>次に、教育普及事業の学校連携ですが、出前事業は申込みを受けて実施し、19回実施して1,834人、グリーンスクールは12回実施で945人の参加となっています。19校、12校ではなくて19回、12回としたのは、同じ学校に複数回行っているため、延べの学校数で言えば両方を合わせて31校の実施となります。</p> <p>こちらはいずれもA評価をつけましたが、ここもちょっと煩悶するものがあります。私もあと1年で完全退職をします。それで、新しい学芸員が入りますが、学校との連携は、人の繋がりによるものが非常に多いので、令和6年度の19回の出前授業、12回のグリーンスクールをB評価で基準値にしてしまうと、次世代の学芸員が入ったときに、最初からその基準値をクリアできるかということ、学校の先生方との繋がりづくりから始めていかなければならないので、どこを基準にするかというのはその状況で大分変わってきてしまうので、数値評価の時どうしたらいいのか、とりあえず他の館の状況も見て評価をつけている感じになります。</p> <p>最後に運営に関してですが、施設の維持管理及び庶務事務については、年間を通して予定通り実施したこと、また5月に収蔵庫専用の空調機が壊れたことに対し9月補正で対応することができたことでそれぞれA評価としました。</p> <p>収蔵庫専用空調システムが壊れてしまって、ちょうど丸1年で新しいものに更新することができました。それで、先日の千葉県博物館協会の施設見学会が当館でありまして、参加した各館の方に収蔵庫も見えていただいて、空調システムも見えていただきました。あわせて収蔵庫も他の館と同じで当館もかなりいっぱいになりつつありますので、今後、市町村立博物館として施設の老朽化、収蔵庫が</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 高橋主幹	<p>いっぱいになることに対して、どうすればいいかの議論をしたところです。とりあえず第3世代の収蔵庫専用の空調機が今稼働し始めてとてもよい状態で収蔵庫が維持できていることで評価がAとなっております。以上です。</p> <p>今、三館からそれぞれ自己評価の説明を行いました。お手元の資料、令和6年度事業実施状況に対する外部評価の資料をご覧ください。先に申し上げますが、今、各館ごとに自己評価をした中で、6つの大きい項目について総合的に判断した中で、とりあえず全てB評価とさせていただきました。簡単にご説明しますと、まず、収集保管及び調査研究の成果としまして、研究調査の部分では、考古博物館では、文化財課内で現在進行中の曾谷貝塚保存活用計画や下総国分寺跡附北下瓦窯跡の整備基本計画の2つの計画策定に協力しておりまして、この策定検討会で行っております現地調査や調査報告会等の説明、解説についても協力しました点、それから、収集保管の部分では歴史博物館で新しい試みとしまして、学生を中心としたボランティアにより、収蔵品の整理を行い、今後のデータベース化や、資料保存に道筋がつけられた点。また自然博の方でも未整備データが整理されて収蔵資料を市の公式ウェブサイトにてテスト公開した点など、こういったところを非常に評価できると考えている一方、やはりこれらはそれぞれ、今後も継続していく内容であるということから、達成率ということで考えますと90%以上というような評価とはしにくいところで、総合的に判断いたしましてBといたしました。</p> <p>次に、展示事業についてです。展示は収蔵資料や博物館の研究成果などを発表する「華」の部分ですが、考古博物館、歴史博物館につきましては、昨年度は小企画展等を数多く企画いたしました。ただ、令和5年度の来館者数を比較しますと、大幅な伸び等は実現できませんでした。これは1つには、展示替えがやはり大きな課題かなというふうに思っておりますが、ここしばらくきちんとした大きな展示替えができていない、展示物についても同じものだというふうに言われてしまうのは、やっぱりそういったマイナスのイメージが影響しているのではないかといったところで、しかしながら、今回実数としてはどちらの館も微減に食い止めたところが評価できると思っております。</p> <p>一方、自然博物館については、目標の来館者数を達成しているということから、この辺りを含めて3館合わせまして、これも評価をBとさせていただきました。市民向けの教育普及事業につきましては、基本的なレベル、内容をクリアしているという判断のもとで、評価はBとしております。</p> <p>先ほど自然博物館からも話がありましたが、達成度を数値化するために、例えば市民参加数で判断せざるをえないとか、これまでの研究成果を市民に還元できたかどうか、希少生物を保護できたかどうか、といった数値目標での評価に適さない面がある項目の評価基準について見直すべきかどうか、今後検討していきたいと思っております。そのような話を含めた判断のもと、評価をBとしております。それから学校関連の教育普及につきましては、市内小中学校からの依頼による出張授業、学校関連学習資料展を利用した体験学習指導、自然観察園での授業を実施しまして、学校の授業と密接に関連しながら、市川市の歴史や自然について知ったり、さらに深い理解を得たりする機会となっていると思っておりますが、しかしながら、達成度としましては学校からの依頼数によるところが大きいだろうということで、総合的にB評価といたしました。</p> <p>地域連携の教育普及につきましては、公民館事業や市民団体からの要請を受けて、講演会の講師、地域のお祭りに参加するなどして、市川市の歴史や自然について</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>の知識を得る機会を提供していると思っております。しかしながら、こちらもやはり学校連携と同様に、依頼をされる件数によるところが大きいいため、こちらも総合的に判断してB評価としているところです。</p> <p>最後の運営についてですが、こちらにつきましては、考古、歴博ともに建物の附帯設備の老朽化への対応が非常に遅れております。</p> <p>常に修繕、改修工事の予算要求は行っておりますが、なかなか認められておりません。先ほどの説明もございました自然博物館では、空調関係につきまして不具合が発生したということで、来館者の拝観や利便性が損なわれることもあったと考えております。この突発的なものを含めた建物の不具合については、補正予算を組んで対応しているところです。</p> <p>一方、公共建築物の総合計画の個別計画では、この先、考古博物館、歴史博物館ともに、10年以上、現状のこの建物を使用する必要があることになっております。常々、財政部とは計画的な修繕について説明して必要な予算を確保できるように協議している点、それ以外にも、例年どおり年報や博物館だより、市広報紙などを通じて博物館の活動をアピールしているということも判断いたしまして、評価をBとしております。</p> <p>以上、事業の実施状況に対する自己評価の説明といたします。</p>
松田委員長	<p>はい。ご説明ありがとうございました。考古、歴史、自然のそれぞれの館の令和6年度の実施事業実施状況並びに3つの館の総合評価、自己評価等について一通り説明いただきました。</p> <p>それでは、これより委員の皆様からのご質問、ご意見等を伺って参ります。</p> <p>評価に対するご意見はこの後の協議事項の際に伺うとして、まずはご質問、ご意見等がございましたらご発言願います。</p> <p>はい。では田辺委員。</p>
田辺委員	<p>博物館にお伺いします。教育普及事業の全市民対象のところ、夏休みスタンプラリーが前年度2から3割近く減少してしまったとありますが、これについて何か原因がわかっているのでしょうか。それと、やはり考古博物館の運営についてなんですけれども、エレベーターが故障しているということなのですが、故障していても、展示室へは裏からルートがあるとかそういうことなのでしょうか。本当に見たいと思っていまして車椅子の方とかはもう見られない状況なのでしょうか。</p>
事務局 松本学芸員	<p>はい。お答えいたします。まず1点目、夏休みスタンプラリーですが、3割近く人数が減った要因というのは全くわかりません。毎年400人から500人近くの子供たちが参加してくれていましたが、全くわかりません。</p> <p>そうは言っても、手をこまねいては何一つ改善できないので、資料には傷んだスタンプを交換したり、新たに制作するというふうに書いてございますが、館内を回っていただくとスタンプが設置されていますので、ぜひご覧いただければと思います。新しく作ったり、スタンプ自体は良くしました。</p> <p>それからあと、7月の広報紙で、夏休みの行事でこんな企画を考古博物館、歴史博物館と一緒にやっています、という告知を今年はしっかりして、紙面に大きく出して見ていただけるような努力をしております。今年は、行事に参加して下さる方々に、広報を見てきましたとか、SNSを見て博物館に来ました、行事に参加しますとか、或いはWEBを見てきましたという方が多かったです。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>今回、広報をみてきましたという方が多かったので、その辺りは多少、改善の見込みがあつてほしいと考えております。ちなみに本日の朝の段階で 352 人でした。昨年を上回るというふうに思っております。</p> <p>2 点目のエレベーターについてですが、これは本当に反省すべき、公共施設にあるまじき状態が続いております。工事を担当する部署と当課の事務職員とが濃密に協議、交渉を重ねておりまして、来年度に設置、事務自体は今年もどんどん進めているところで、来年度早々に直せる方向で調整中です。</p> <p>本当に心苦しいのですが、例えばデイサービスの方々ですとか、車椅子で来られて、ご覧になれない状態が続いております。当然、どうしても見たいと仰っていただければ、私共が人力でお運びするという決意ではおりますが、実際は遠慮される方が多いです。基本的には階段がございますので、健常者の方、健康な方であれば階段で登っていただくこととなります。</p> <p>実は、仮の修繕はしてありまして、運転できなくもないのですが、学芸員が点検中に利用したところ、閉じ込められたという事故がございまして、エレベーター会社に来てもらって、屋根を開けて、割とアスレチックのような形で脱出するような事態になってしまったものですから、安全第一ということでご利用は控えていただいているといった状況でございます。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。はい。</p> <p>他にご質問、ご意見がございますか。</p>
櫻庭副委員長	<p>田辺委員の、夏休み期間中のスタンプラリーで利用者が減少した理由について、回答ではわからないというふうにおっしゃっていましたが、多分、昨年度からですね、猛暑が多分影響して、お子さんも猛暑の中で何処か行きたいと言っても、例えばご家庭では外に出るなという形で結果がなっているのではないかと、これは推測でしかないですが、かなりこの猛暑が影響しているのではないかと。</p> <p>逆に猛暑対策を考えた時に、先ほど話で出ましたナイトミュージアム、昼間ではなくて、夜という企画を少し考えた方が良いのではないかとというふうに思いました。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
事務局 松本学芸員	<p>ありがとうございます。実は今、櫻庭委員がご指摘の、猛暑ではないかというご意見は念頭にはございました。ただちょっと根拠に乏しいので申し上げにくかったというところです。実際、今メディアでは家にいましょうと、NHKのアナウンサーでも外に出るのは控えましょうということをしきりに報道されています。特に、自家用車のご利用でない、公共交通をご利用の方々などは無理をしてお出かけはなるべく控えましょう、ということなのかもしれません。</p> <p>私もそのように思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか</p>
谷畑委員	<p>先ほど副委員長の方からナイトミュージアムという提案があつたのですが、歴史博物館の方ではナイトミュージアムは実施せずオータムフェスタに変更っておりますが、ナイトミュージアムがやりづらい理由などがあるのでしょうか。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 山岸学芸員	<p>ナイトミュージアムをオータムフェスタに変更した理由としましては、どうしても夜間に開館するにあたって、職員が長時間拘束されるということと、外の街灯やその他の電灯設備の整備がちょっと大変な点で、考古博物館から歴史博物館の坂道の部分にはどうしても街灯がありませんので、外部業者に委託して街灯をつけるか、それとも、点々とライトを置いていくかの対応をしなくてはならない点、それに職員的人数的に負担が大きいということなどがありまして、オータムフェスタに変更したという状況です。ナイトミュージアムが結構好評なのは重々承知しており心苦しい点ではあります。以上です。</p>
櫻庭副委員長	<p>すいません、余計なこと言いました。</p>
松田委員長	<p>私も何年か前、ナイトミュージアムをやって好評だったときのことを覚えておりますので、ちょっと残念だなと思いましたが、しかし、オータムフェスタに切り換えて104名とかなりの数は入っているのは良かったと思えました。他にいかがでしょうか。では滝口委員。</p>
滝口委員	<p>歴史博物館の方にちょっとご質問をさせていただきたいのですが、まず1点目として、収蔵資料の整備を進められているということで、非常にこれ必要なことだと思うのですが、整理をする当初に必要な配架先の場所の確保であるとか、或いはそれに必要な箱だとかケースだとかいろいろ関連する博物館用品というのが必要になると思うのですが、そういったことがある程度ちゃんと踏まえられて順調に進められているのかどうかということと、その整理をすると結局その先には収蔵資料のデータベース化がやってくると思うのですが、そういう見通しはどのような感じであるかということ伺いたいのと、もう1つは古文書とか古写真の目録のデジタル化をしているということですが、この先どのような活用を意図してされているのかということ伺いたいのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 山岸学芸員	<p>まず収蔵場所につきましては、民俗の収蔵庫も古文書の収蔵庫もやはりカツカツになっていますが、収蔵した際に、受け入れた際にとりあえずどんどん入れていけという感じで入れていった結果、デッドスペースが生まれていることがありますので、そういったところもすべて一回、品物を出して、清掃して、入れ直すという作業をやっておりますので、少しずつデッドスペースを埋めていって、ある程度の場所を確保して収蔵していく状況になります。</p> <p>また資料整理に使う箱であるとかケースであるとか、そういった用品については、その都度買いますが、買わなくてはならないものを予算計上し、また、大学生ボランティアによる収蔵庫整理を、そういう活動をするから必要であると予算の根拠にもなりますので、そのようなときに買えるようにしたいと思っています。</p> <p>データベース化と収蔵品整理と並行してどんどんやっていって、自然博物館のようにリストを公開できればと思っています。</p> <p>その間の資料の整理した資料の活用につきましては、やはり常設展示がどうしてもずっと同じ状態になっていますので、民俗資料であれば、同様の資料であるとか別の資料と入れ替えたり、古文書につきましても、常に同じ古文書を出していると傷んでしまいますので、別の資料に入れ替えたり、古文書講座の資料に活用できたらいいと思っております。</p> <p>デジタルにつきましては、まだ見通しが立っていないですが、一応、その博物館にはこういったものがあるということをWEB上で写真付きで公開していきたい</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	と考えております。
滝口委員	ぜひ、ちょっとずつでも何か公開されていくと良い循環が生まれるのではないかと考えています。
松田委員長	はい。ありがとうございます。 他にご意見ご質問ございますか。 では、谷畑委員。お願いします。
谷畑委員	自然博物館の方の、「数字で評価するのはどんなものか…」というお話が出ていて、他の博物館の事例を思い出したのですが、浜松市に歴史系の博物館があって、そこは何か入館者数はとるのですが、数字を評価するというを第一にはしないという方策に変えています。先ほどのスナヤツメとかホトケドジョウとかがちゃんと生息すればいいのではないかとということで、数値評価だけではなくて、他の評価をつけるべきではないかというふうにおっしゃっていたのは、まさにその通りだと思っています。浜松市の博物館では、入館者数ではなくて、例えば来館者が、1回目より2回目の方がより子供たちが理解すれば、それにより評価があがるというふうな基準を作っていますので、数値評価以外の何かというものを作っていけば、この博物館の評価はちょっとまた変わってくるのではないかと考えています。自己評価ではDになっていますが、もうちょっといい評価になるのかなと感じましたので、そういうふうに変えることが必要なのかなとちょっと感じました。
松田委員長	谷畑委員、ありがとうございます。情報提供も含めていただきました。私も賛同するところです。数値目標や数値の実績というのは、参考資料としてあってもいいと思いますし、むしろあったほうがいいとは思いますが、それだけでやはりわからないものがあると思われまので、定性評価と言われているものも是非組み込んでいただければと私も思いました。 他にはいかがでしょうか。では、私からも確認します。 まず、コメントです。考古学の運営のところで説明がありました考古・歴史博物館公式ウェブサイトSNS運営のところですけども、これは良い点だなと思いました。SNS、昔の名前で言うとツイッター、Xを両館がされていますが、かなりの頻度で更新されていて、これもとても良いというか、従来から情報発信というのは課題として上がってきたのですけれども、今回、その貸借文書の手続きという意味でもいいと思いますし、またSNS運営の方も書かれていませんけれども、私は着実にやっているなと思いましたので、Aでも良いかなと感じました。また歴史博物館の展示事業で、9月から1月まで学校連携学習資料展をやったという話でした。校外学習のタイミングに合わせて会期を延ばしたということで負担が増えたと思いますが、ここは数字を取ってもいいかなと思いました。 入館者数が前年度より4000人あまり増えて9000人ですから、令和5年度は5000人だったものが9000人になった、もともと3ヶ月だったのを5ヶ月にして倍以上増えたということですから、これは本当に適切なタイミングを考えた判断だったかなというふうに感じました。 あと歴史博物館の教育普及事業、全市民対象では、史跡見学会が9名だったというのが少し少ないように感じられまして、ただ、これは天候等もあると思うのですけれども、数字がすべてという世界では全くないと思いますので

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
<p>事務局 山岸学芸員</p>	<p>9名の方々がとてもよい学びをしていたらそれでよいことだと思うのですが、ちょっと人数についていくつか申し上げる後に、何か思うところがございましたら教えていただければと思います。</p> <p>また歴史博物館をめぐって、学校連携のところで、資料貸出1校があって、昭和学院中学校に戦時期の資料を貸出したということで、これは基本的に申し込みがあれば実施するということでしたが、貸し出す場合に学芸員の方がついていくものなのでしょうか。誰に具体的に貸し出しをされているのかというところについて教えていただければと思います。</p> <p>自然博物館の評価の表記Aがやはり今年は何かたくさん出ていると思いました。これはとりわけ考古・歴史と比べたときに、自然博物館はAが多いように見えて、しかし収蔵台帳のWEB公開はずっと懸案事項で一気に出されたので、この部分はもうAではなく程度を上げてSぐらいあげてもいいのではないかと思ったのですが、全体的にAが多いという印象を受けました。そのことが悪いというつもりは全くないですけれども、おそらくこれは評価基準で上がっている、例えば参加者数、内容満足度すべて見込み以上の成果を得た、見込み以上なのですが数値をみると90%以上となっていて、何となく我々の一般の感覚でB以上は100を超えているような気がするのですが、この部分が、見込み以上とそのパーセントで表示されている90%を上回っているというのが、なんかズレがあるような気がして、そのあたりをどう解釈するかでこうなってしまうのかなと思いました。</p> <p>これはしかし、年度ごとにブレる、或いは3つの間で差があるとまづいような気がしましたので、今回どうのこうのということではないと思うのですが、何らかの3館共通の見解というのを設けられた方が良いのかなという気はしました。</p> <p>あと、総合評価のところに出てきた話ですが、先ほどご説明の中で、考古、歴博の建物を基本的に向こう10年間は使い続けなければならないというご説明がございました。何年か前に、建て替えの案の案といいましょうか、その話があったことを覚えております。その時にはかなり老朽化が進んでいるということで、2つの館を、場合によっては面積も狭くなるかもしれないが新設することを考え始めているみたいなことになって、しかし、その案の案はなくなってしまったのですが、また、10年は今の建物を使い続けなければいけないとなったことについて、どのレベルでそのような判断がいつ、なされたかということについて、ご質問の3番目ということでお聞かせいただけましたら幸いです。</p> <p>歴史博物館の教育普及事業全市民対象の史跡見学会につきまして、参加者が9名。親子向け見学会として開催したのですが、中山法華経寺というのが渋過ぎたという感じです。参加された親子というものも、想定していた小学校の子供を持つ親御さんが来られるイメージでしたが、ベビーカーの方、ご高齢の方とありまして、場所と対象年齢を再検討しないと、この人数がふやせないのかなと考えています。なので、今後は場所を違う場所に、人が集まりやすい場所といえば行徳か八幡なのかなと、色々考えた上でまた実施したいと考えています。</p> <p>学校連携の方では、資料貸出しにつきまして、今回は戦時期の資料の貸出しについてですが、これは学校の先生から当館に問い合わせがあって、戦時期の資料を中学校の授業で利用したいという申請がありまして、それに対して、うちにはこのような貸出せる資料がありますと、例えば、米軍が日本に投降を求める戦中のピラですね、空からまいたピラであるとか、消防訓練用のバケツであるとか、火消し用の叩きみみたいなものであるとか、そういった貸出せるものを公表しまして、そちらを先生が、書類等の手続きをしまして、貸し出すという形になります。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 小笠原課長	<p>終わりましたら、また先生が返却しに来てくれるという形になります。</p> <p>博物館の評価基準の方は、改めて検討させていただければと思いますけれども、もう1点の建て替えの方のお話ですけれども、委員長がおっしゃる通り、平成30年ごろに、一度建て替えの話が実際ございました。計画というかも構想レベルで話が止まってしましまして、その後コロナ前後ぐらいに、これは全国的な動きなのですが。公共施設の老朽化というところが課題になりまして、総合管理計画というものを全国的に策定しなさいということが、確か総務省からだったと思いますが、通知の方が出されまして、大体、学校施設の老朽化を中心として延長的な方法としての方向性についての計画を立てなさいというような指導がございまして、計画をそれに基づいて立てて、また学校や他の公共施設それぞれに対する公共施設の個別計画というものもまた立てております。</p> <p>具体的な年数はちょっと忘れましたが、4～5年前に立てられまして、今、計画上うたわれているのが令和12年までの計画になります。令和12年までに設計に着手する計画については公になっているのですが、その中で、博物館についてはまだ表現されていないというのが対外的な実情になっています。</p> <p>この順番ですが、基本的には築年数を目途にしております。鉄筋コンクリート造りの建物につきましては、セメントの中性化といいますけれども、アルカリ性のものがだんだん酸性に近づいて中性化していくと、脆くなってしまうという、この年数が大体60年というふうに言われておりますので、この60年をめぐって、60年を過ぎたら建て替えを進めてもいいよというような基準がございまして、それは県、市の中で共通認識というふうにされている中で、公共施設、博物館のうち考古博物館が一番古いんですけども、築53年となりますので、少なくとも7年間は設計にも着手できないという状況ですので、それから設計に着手して建築に進めるとなると最低でも10年かかるだろうと思われまますが、予算もございまして、順調に必ずしもそれがいくとも限りませんので、少なくとも10年は使わなければならないというような計画になっていると考えております。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。了解いたしました。</p> <p>そのほかに。ございませんか。無いようでしたら、次に進みたいと思います。報告事項が4点ございます。これはより短くなるかと思うのですが、考古・歴史・自然博物館から令和7年度の個別事業計画についてご報告いただくことになっておりますので、お願いいたします。</p>
事務局 松本学芸員	<p>考古博物館からご説明申し上げます。</p> <p>かいつまんでご説明申し上げますと、展示は今年度も同様です。同様ですがホール小展示、縄文時代関係と課題をお示ししておりますが、学校関連の教育普及、大学学芸員課程、館務実習指導がございまして、学芸員館務実習は無事に終了いたしまして、学生さんたちが作ったホール小展示も8月9日から公開されております。タイトルは堀之内・曾谷・姥山というものになっております。</p> <p>大テーマが示されておまして、パネルを中心に3つの国指定貝塚を紹介するという内容になっております。</p> <p>次ですが、市民向けのアイ・リンクタウンの年表につきまして、今年度はお盆前頃から、実際に年表をご覧になられた方にスマートフォンのQRコードでフォームを開き、クイズに挑戦していただくという行事を歴史博物館と共同で開催しております。今のところ、20数人、すでにご参加いただいております。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
<p>事務局 山岸学芸員</p>	<p>もっと継続的に実施しまして、広報もしまして、今後もう少し参加者が増えてくれるとよいと考えております。</p> <p>地域連携の教育普及、地域祭りへの参加というのを企画しております。</p> <p>これも既にいくつか実施しております、前回の会議でも申し上げたかもしれませんが、ラグビーチームクボタスピアーズですが、市川市がホストタウンになっております。このチームのイベントに参加しました。試合当日、外周にテントを張りまして、隣は成田市さんで成田市さんは「ウナリ君」が来ておりまして、チラシをいっぱい配って大人気だったのですが、そのお陰で大変苦戦いたしましたけれども、私どもも普段、博物館で実施しております組み紐づくりのワークショップを開催し、60 数人の方にご参加いただきました。全く畑違いのイベントに参加するというのはなかなか苦しい行事だったのですが、いつもと違うお客様に博物館を紹介し、こんな遊びもあるということで、違う活動ができたのではないかと思っております。秋にはニッケコルトンプラザというショッピングセンターで同じように組紐をやるという話が、いくつかの業者さんを挟んで準備中というところがございます。これも全く違う場所で博物館をアピールする良い機会かなと思ひまして、あえて挑戦することにいたしました。</p> <p>続きまして歴史博物館の事業計画です。</p> <p>収蔵民具資料整備、こちらも令和6年度に引き続きやっていくのですが、展示のところで同様に、この第1収蔵室民具資料整理の成果報告展示が抜けておりますので追加いたします。</p> <p>今、やっているのですが、1階常設展示室で、壁面展示で成果報告展をやっております。次に市民向けの教育普及のところ、市川歴史セミナー公開講演会ですが、市川歴史セミナーは考古、歴博の学芸員が、各時代を担当して順番に時代ごとに講座をやっていくものですが、その近世の部分にあたる講座を公開講演会としまして、駒澤大学の菅野先生に依頼しまして、2月14日に実施する予定です。</p> <p>夏休み体験講座では、自己評価で述べた通り、洗濯体験をやめて、和綴じのメモ帳づくりと水鉄砲づくりだけにいたしました。水鉄砲づくりに関しては2回実施しました。加えて夏休み子供1日学芸員という別のイベントも追加しました。</p> <p>学芸員の仕事がどんなものであるか、博物館の裏側がどうなっているか等を見てもらい、加えて常設展示室内の資料を1つ選んでもらって、それについてキャプションを書いてもらうという体験になります。こちらも7年度から追加したイベントになります。</p> <p>地域連携の教育普及では、地域祭りに歴史博物館として今までは参加してこなかったのですが、自治会であるとか妙典にあるイオンの地域まつりに参加できないかということで、7年度は10月26日に実施される行徳まつりに参加する予定です。ここで博物館のPRであるとか、通常時に昔遊びの企画の中でやっている紋切り遊びなどを実施できればと思っております。</p> <p>運営の中のSNSによる情報発信ですが、若手の学芸員を中心として会計年度職員にお願いして、何かしらフォローしてくださっている方の目に留まるような情報を発信していけるとよいと思っております。そのため停滞していたインスタグラムの活用なども実施するようにしております。</p>
<p>事務局 金子学芸員</p>	<p>自然博物館です。事業計画している内容は例年通りです。先ほども触れたのですが、ちょうど世代交代の時期になっていまして、開館から30年ほど従事していましたが、退職をして第2世代に引き継ぐ状況ですが、このような事業計画</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>を全部を第2世代に渡してやってと言っても多分無理だと思うので、というのも、30年ぐらいかけてこれだけの事業をこなせるようになっていっているので、多分、世代交代の中で資料にある事業のいくつかは、外部に持ち出さなければいけないだろう、新しい学芸員にもやはり研究分野のこともしっかりやってもらいたいで、そうであるとするならば、例えばいくつかのものは博物館が窓口になって外部ボランティアがやる、例えば学校に授業に行く事業は、実は、昨日も行徳地区の保育園に虫を連れて行って、2歳児から5歳児クラスまで4クラスの子供たちに虫を触ってもらって、すごく盛り上がったのですが、それをなかなか新しい学芸員さんがすぐやって、2歳児や3歳児の相手ができるか、というところも含めて難しいので、第2世代の方がある程度経験を積むまでの間、窓口は博物館が行うけれども、例えば外部ボランティアとして退職した私が学校に行く、そういう世代交代とともに事業自体も内容が変わってくるのかなあという感じがしています。なので、もしかしたら数年後はこの事業計画表がもっと項目数が少なくなってしまふかもしれない過渡期ですので、逆に何かもしお知恵が拝借できれば、何かお考えなり事例なりがあれば教えていただければと思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございました。今年度の館別の事業計画は、前回の協議会でも報告がありましたが、今回新たに、新規にこの協議会の委員になった方もいらっしゃるということで、主な事業をかいつまんで報告していただきました。これらのご報告について、ご意見、ご質問等がございますか。</p>
谷畑委員	<p>私の見落としかもしれないので教えていただきたいのですが、今年は戦後80年ということで、各館、何かそれにちなんだ展示とかがあるのですが、近代となると歴博の仕事になると思いますが、何かそういった関連の事業があれば教えていただければと思います。</p>
事務局 山岸学芸員	<p>はい。戦後80周年ですので、何かしら展示はしようと思っていまして、今、計画しているのが館務実習展、学校関連教育普及の大学学芸員課程の実習指導にかかるとは、大学生の学芸員を目指している方々に、館務実習のまとめの展示をしてもらう中で、戦後80周年展を開催する予定です。戦時中の資料ではなくて戦後、終戦後の人々の生活であるとか、引揚資料であるとかを展示しようと考えています。</p>
松田委員長	<p>他にご質問、ご意見はございますか。 先ほど歴史博物館、考古博物館の地域祭りに出ていくというのはとても良い流れだなと感じました。全体的に、国の色々な博物館を見ていまして、館の中に人を呼び込むだけではなく、館が地域に出ていくという流れが強くなっていて、その方が市民の理解や支援が得られるというふうに感じました。 そういえば、歴史博物館の収集保管及び調査研究で、市内の小学校所蔵資料調査をやっているらしいです。これは数年、何年かやってらっしゃると思いますが、もし間違っていなければ昨年度、稲荷木小学校でしたか、全国的に見ても小学校は実は貴重な資料を持っているというケースが多々ございます。昨今は少子化で、せつかくの学校の資料が生かされない、場合によっては廃棄されてしまうということもあって、博物館が、何処に何の資料があるか調べている、実はそこからお宝が出てくることもございますので、これ着実にラインに乗り実施と思っておりますが、進めていらっしゃる市川市さん、本当に良いと前から思っておりました。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>他に質問やご意見ございますか。</p> <p>ないようでしたら、では両括弧 1 の報告事項はこれで終わりになりまして、議題の両括弧 2、協議事項に移りたいと思います。</p> <p>先ほどご説明いただきました、令和 6 年度の事業実施状況、自己評価の説明がありました。外部評価に移っていきたいと思いますので事務局よりご説明お願いいたします。</p>
事務局 高橋主幹	<p>先ほどご報告いたしました、令和 6 年度事業実施状況に対する自己評価及び総合評価に対しまして、評議委員皆様のご意見として、協議会としての外部評価をお願いいたします。</p>
松田委員長	<p>はい、それでは、この進め方についてのご質問はございますか。</p> <p>館別の令和6年度の事業実施自己評価及び総合評価が色々と種類がありましたが、説明は先ほどいただいた通りです。</p> <p>ここからは、A・B・C・Dまでございまして、このままでよいのかということ。自己評価で挙がっていた内容について、評点を上げた方が良く、下げた方が良くというものがございましたら、ご指摘いただければ幸いです。</p> <p>はい。山田委員、お願いします。</p>
山田委員	<p>はい。山田です。皆様のご議論と、説明の資料を拝見したところ、幾つかB評価をA評価にしたほうがいいのではないかと考えておりました。まず一番上の考古博物館のところ、自己評価Bですけれども、報告書のことに関して積極的な活動もありますし、これはAでもいいかなと考えております。</p> <p>あと展示のところでは、歴博のところ、先ほどたくさんご意見がありました通り、資料記載の企画展などもたくさん行われていたりしているので、そこもA評価で良いかと思っております。また、市民向けの教育普及というところでは、考古博物館ではイベントが開催されて多数の参加者があったということで、Aで良いのかなあというところがあります。</p> <p>総合評価の方では、収集保存保管及び調査研究ところの自己評価全体を含めて、A評価かなというところと、展示のところもAにした方が良くはないかなと思っております。</p>
松田委員長	<p>はい。良いご意見ありがとうございました。</p> <p>確認ですが、総合評価の例を見るといいと思うのですが、収集保管及び調査研究のところ、現状BをAにする、このことによってA・B・Aとなりますので、総合自己評価もBからAに提示しておるのではないかと。Aが2つ、Bが一つということで、また展示のところは現状B・B・Aとなっておりますが、歴史博物館の展示に突出したものがあつたことでB・A・Aにして、これを受けて総合自己評価はAが2つになりましたのでAにしてもよいのではないかとのご意見でした。</p> <p>市民向けの教育普及につきましては、考古のところはBになっているけれども、これをAにしてはいかがかという提案でした。</p> <p>他にも今の山田委員からのご提案に関して、また或いは別の観点でもよいかと思っておりますが、ご意見がございましたらお願いいたします。</p>
櫻庭副委員長	<p>博物館友の会です。</p> <p>先ほどの歴博の方を見ていただくとわかりますように、非常に歴史博物館学芸員</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>のお世話になっています。特に、古文書講座を昨年度から始めまして、今年度も始めていますが、そこで実際の古文書の貴重な資料を、講座に参加された方にもお見せして、昨年は当初30名ぐらいの参加者が20名ぐらいに段々減って行って、それが今年度はですね、30名ぐらいの参加者がそのままずっとまだ30名参加している。昨年の評価が古文書の講座に繋がったのではないかなということと、また適切な資料提供、そのせいもあるということで、収集も展示も歴史はAでいいのではないかなということと、あと市民向けの評価ですが、これも歴博についてはそういったことで、非常に手前みそになりますけど、中山法華経寺の参加者が少ないということでBと言っていますけれど、その他でこれはAでよろしいのではないかなというふうに、市民向けの歴博ですね。ですから歴博は収集保管、それから展示、それから教育普及についてAでよろしいのではないかと思います。</p>
松田委員長	<p>櫻庭委員、ありがとうございます。 歴史は上の3つともBという自己評価でしたが、3つともAで良いのではないかなということでした、市民向けの教育普及、もし、今、自己評価ではB・B・Bでしたが、A・A・Bになるのであれば、櫻庭委員、山田委員のご意見を受けてAとなるのであれば。Aが3つになるのでAでも良いのではという気もします。とはいえ、今の段階での提案ですので、他にご意見やご質問があればお願いいたします。個人的には、総合自己評価が全てBというのは何となく予定調和すぎますので、メリハリはあった方が良くと思います。ちゃんと評価し、もし足りないところがあればDやCがあってもよいと思いましたが、すべて提案通りとなりましたら、よろしいでしょうか。甘すぎるという声がありましたらいただきたいと思えます。はい。では田辺委員。</p>
田辺委員	<p>運営のところですが、考古博物館のエレベーター問題がやはり気になっておりまして、例えば、運営のところ、考古博物館をCというふうにこの協議会でつけければ、財政との協議で何か力になれるとか、そういうことがあるのであれば、むしろここはCにして、ということも考えられるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。</p>
松田委員長	<p>思いやりに満ちたC評価はいかがでしょうかということですが、でもこれは本当に、しかし協議会からもうここはしっかりしろということで、予算折衝に役立てるのであれば確かにそれもいいかなと思いました。個人的には追い風になるような気がしましたし、評価としてもひょっとしたらCが前向きな意味であるのは、悪いことではないという気がします。</p>
櫻庭副委員長	<p>理由がちょっと不足してということですか。でなければ、ただ単に、何をやっているのか、で終わってしまう。</p>
松田委員長	<p>そうですね。理由はちゃんと書いた上で、改善してほしいと理由を書いてCをつけるということでもよろしいでしょうか。 それでは、他にご意見やご提案がございしますか。 無いようでしたら、改めて、重要な点ですので確認したいと思えます。 資料上部から順に、館別自己評価では、収集保管及び調査研究がA・A・Aを受けて総合評価ではA、展示がB・A・Aを受けて総合評価A、市民向けの教育普及はA・A・Bとなり総合評価A、学校関連の教育普及はB・B・Aのままです。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
<p>事務局 小笠原課長</p>	<p>総合評価もB、地域連携の教育普及はB・B・Aのままで総合評価もB、そして運営がC・B・Aとなり総合自己評価はBのままという形で決めてもよろしいでしょうか。ご異論がないようでしたら、このように決定したいと思います。</p> <p>最後の運営の考古のCのところは、エレベーターの修繕が一刻も進める必要があるという何らかの文言を付しておくということで決定したいと思います。</p> <p>ご審議をありがとうございました。</p> <p>議題として、協議事項の2番目として市川市博物館基本的運営方針及び事業計画についてが挙がっておりますので、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>手短にご説明をさせていただきます。博物館運営方針の見直しの方につきましては、令和6年度の会議におきまして、博物館運営方針の見直しの必要性と方向性についてご提案させていただきました。ご了解いただきました。</p> <p>その際の概要についてご説明をいたしますと、まず見直しの必要性につきましては、平成31年度で前方針の計画期間が終了しておりました。その後更新がされていなかったこと、またその間、博物館法の改正もあり、そちらの対応が必要となること、また、今年中に見直しを行います博物館の再登録に向けての改正が必要であることをお伝えいたしました。</p> <p>また、見直しの方向性といたしましては、1から方針を見直すのではなく、必要箇所の見直しを求めることについてもご了解いただいております。</p> <p>本日は前回までの方向性に基づきまして、博物館運営方針の内容についての見直しの案を作成いたしましたので、内容についてご協議いただければと考えております。</p> <p>それでは、資料の市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画をご覧ください。先ほど冒頭で、新旧対照表を別紙でお伝えしましたが、一番後ろのページにお付けしておりますので、そちらを見比べながら確認いただければと思います。</p> <p>主要な修正点をご説明させていただきます。まず表紙の部分ですが、タイトルを市川市立博物館運営基本方針及び事業計画の基本方針から、市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画に変更いたしました。</p> <p>こちらは博物館の設置及び管理運営上の望ましい基準、第三条の記載に合わせて文言を変更させていただいたものです。</p> <p>合わせて課名等も追記をさせていただいております。次に、方針の位置付けについて、内容の記載を変更いたしました。これは、第4次生涯学習推進計画という市の計画がございましたが、こちらが終了しておりますので、それぞれの市の計画の更新や博物館法や博物館の設置及び運営上の望ましい基準の記載を明示する形に変更したものです。</p> <p>次に、計画期間についてです。先ほどご説明いたしました。計画期間の見直しと総務生涯学習推進計画の終了に伴いまして、計画期間を教育振興基本計画の計画期間と合わせております。</p> <p>続きまして、資料4ページから7ページ目につきましては、博物館法や文化芸術基本法に沿って下線部分の内容を追記しております。</p> <p>8ページと9ページは7ページまでの内容の整理と、それに沿った現状の取り組みについて変更を行っております。</p> <p>最後のページ、下段に記載しておりますが、本来第5章として、第4次市川市生涯学習推進計画における博物館事業という項目がございましたが、活動計画の終了に伴いまして、章ごと削除しております。</p>

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	主に主な修正内容については以上となります。こちらについて何かご意見等ございましたらお願いをいたします。
松田委員長	はい。ご意見やご質問はございますか。それでは石垣委員、お願いいたします。
石垣委員	基本的なものはもう前回で協議されているというふうに向ったので今更かもしれませんが、多分、肝になるのが3つの使命になるのかなと思います。可能ならば、こういう調査研究とか保管とかですね、要するに、地域の宝を守っていくというのも博物館のやっぱり部分なので、活用に頭が行き過ぎているような感じを正直受けました。なので、全体の使命のところにももちろん書かれているのですが、そこから3つの使命として、と言ったときに、調査研究と保管が抜けるのは、何か博物館としてはちょっと勿体ないというような印象です。
松田委員長	石垣委員、ありがとうございます。事務局より何か今の点についてございますか。
事務局 小笠原課長	もともと策定していた計画がございまして、そちらの方の内容に沿った形で、使命の件については変更はしていないところになりますが、今回新たにお話をいただいておりますし、重要な視点かと思っておりますので、どのような形で加えられるかということも踏まえて、検討していきたいと思っております。
松田委員長	石垣委員のご指摘、大切なところだと思います。活用にもっと注力しないといけないというのは、大きな流れとしてありますが、資料が蔑ろになることがないような、文言が何か加えられれば加えていただけるようお願い申し上げます。他に、ご意見があればお願いいたします。
大橋（弥）委員	事業計画について、前年度もここにいましたので今更になるのですが、先ほど歴史博物館の方で、中山法華経寺が9人だった、がっくり、そして評価が下がるとかいうお話とかあったのですが、やっぱりこの新しい課長さんからお話が合った、具体的な事業内容は単年度の事業計画で適切な事業展開を図りますということが9ページに書かれているのですが、やはり参加させていただいていると、たくさんの事業計画があって、金子学芸員さんとても心配されているように、次世代に続いていくためには、この、頑張ってみただけで、上手い結果がいかなかったということは、単年度にはあると思うのですが、それを刷新していけるような計画を是非、立てていただいて、12個あるから12個来年もやらなきゃいけないんだってということになると、形ばかりになると思いますので、ぜひその辺の内容を来年度に向けて今年度のものをやったときに、事業計画を令和8年度に作っていただけるような編集をしていただけたらいいなと思いました。以上です。
松田委員長	大橋委員、貴重なご指摘ありがとうございます。こういったものは、とりわけ公共機関だとやるのがどんどんどんどん増えていって、とても現実味が失われていくようなところがありますので、柔軟に対応できるような、そのような、ひょっとしたら文言修正を含めてご検討いただければと思いますが、いかがでしょうか。

発 言 者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 小笠原課長	ご意見ありがとうございます。事業計画について記載させていただいておりますが、その中で、大橋委員のアンサーではないのですが、新たな文言の中で選択と集中という文言を追記いたしました。なので、全てのことを網羅的にやるとやはり難しいのかなというふうに思っておりますので、事業計画のページの方には、一応、今実施している計画を網羅しておりますけれども、やはり今後の事業の実施にあたっては、何を集中的に行って、何を選択していくのかというところも年度計画においては必要かなというふうに思っておりますので、そういった意味合いも含めまして、今回そのような新たな文言を加えさせていただきましたので、ご理解いただければと思います。
松田委員長	他にご意見、ご質問がございますか。 では、議事を進めていきます。両括弧3のその他の項目に移ります。 第6回全国国府サミット in 市川について、事務局より説明願います。
事務局 小笠原課長	はい。チラシと、あと封筒をお渡ししているかと思います。 封筒の方には案内状を入れておりますが、ポスターのチラシにもありますとおり、今年の10月18日の土曜日に市川市と市川市教育委員会の共催で、第6回全国国府サミット in 市川を市川市文化会館で開催いたします。 博物館協議会の山田委員にも千葉商科大学の学生さんと1つの展示物をお願いしているところでございますので、そちらも併せてご覧いただくことができます。 本日、パンフレット、チラシと封筒の中に招待券を入れさせていただいておりますので、そちらの方を是非、お使いいただきご覧いただければと思います。
松田委員長	はい。国府サミットについてのご説明をありがとうございました。 ぜひ、参加できればと思っております。 はい。それでは議題はすべて終了いたしましたので、事務局からの事務連絡ということで、次回の協議会についてでしょうか。お願いいたします。
事務局 高橋主幹	次回の協議会の日程につきましては、令和8年3月ごろを予定しております。 また、日程等につきましては、皆様のご都合を伺いながら決定、ご連絡させていただきたいと思っております。
松田委員長	はい。ありがとうございました。 それでは最後に委員の皆様から、全体を通して何か発言がございましたらお願いいたします。 よろしいでしょうか、それではこれもちまして本日の日程はすべて終了となりましたので、市川市博物館協議会を終了させていただきます。 本日は皆様、大変ありがとうございました。